

■ 2004 年公民科倫理 1 学期中間考查（3 年 1,2,3,4,6,7,8,9 組） 正解と解説

大問	問題番号	正解	正答率	配点	大問	問題番号	正解	正答率	配点
1 74.4%	1	2	96	2	4 60.6%	26	2	73	2
	2	4	87	2		27	2	65	2
	3	3	68	2		28	1	92	2
	4	3	84	2		29	3	71	2
	5	4	76	2		30	3	34	2
	6	1	32	2		31	2	37	2
	7	2	82	2		32	3	59	2
	8	3	80	2		33	2	34	2
	9	2	65	2		34	2	69	2
2 77.1%	10	3	92	2	5 58.7%	35	4	84	2
	11	2	96	2		36	2	40	2
	12	2	80	2		37	4	83	2
	13	2	72	2		38	1	64	2
	14	4	65	2		39	3	80	2
	15	1	95	2		40	2	57	2
	16	3	20	2		41	3	59	2
	17	3	97	2		42	2	85	2
3 68.8%	18	1	42	2		43	1	70	2
	19	3	95	2		44	2	52	2
	20	4	72	2		45	2	16	2
	21	6	45	2		46	4	84	2
	22	1	89	2		47	2	59	2
	23	4	79	2		48	3or6	22	2
	24	2	44	2		49		78	2
	25	2	80	2		50	4	32	2

平均
67.1 点

最高点
92 点
(3名)

点数	頻度	累積
95~100	0	0
90~94	7	7
85~89	7	14
80~84	37	51
75~79	32	83
70~74	53	136
65~69	51	187
60~64	43	230
55~59	34	264
50~54	31	295
45~49	10	305
40~44	5	310
35~39	1	311
30~34	2	313
0~29	0	313

解 説

考查全般について

定期考查の昨年度の過去問を配付したり、倫理の用語問題をあらかじめ配付したのは、今年度初めての試みでした。そのため、昨年の問題よりも少し難しめにして、平均点が63点～65点くらいを目標に問題を作ってみました。予想以上に皆さんの出来はよかったと思います。

倫理の定期考查問題は常にそうなのですが、センター試験を意識した問題です。特に選択肢が2行や3行の長い文になっているような問題でも、あまり苦手意識を感じない人や、今回の試験で無理なく点が取れた人には、センター試験の公民科で倫理を選択することをお勧めします！

また、いくつか難易度が高く、正答率の低い問題も出題しましたが、これは資料集を読み込んでいれば解けたのではないかと思います。倫理のセンター試験では、教科書レベルを超えた問題がよく出題されるのですが、本校で採用している資料集を丹念に読み込んでいれば、センター試験で8割9割採ることはそれ程難しいことではなくなります。

第1問

問1 [1] 正解 96%

「最初の哲学者」タレスについての問題。もちろん「万物の根源は水である」ですね。絶対に落としてはならない基本問題です。ちなみに、このヒポクラテスは授業で扱いませんでしたが、ギリシアの科学的医学の創始者です。最近では医療系小論文で、「ヒポクラテスの誓い」という医師の責任と義務について出題されることもあります（資料集 p.9 参照）。問題番号 [4] の がヒポクラテスについての説明です。「ソロンの改革」で有名な、このソロンは、タレス同様、ギリシアの七賢人のうちの一人です。

問2 [2] 正解 87%

この問題も「倫理用語問題集」をしっかりとやった人には簡単な問題だったようです。エンペドクレスの4元素説を「多元論」と呼ぶことにとまどった人も多いかも。アナクシメネスなんかは、「空気がないとメーネッス（見えねえっす）」みたいな覚え方でよいですよ。

問3 [3] 正解 68%

穴埋め問題のポイントは問題文の前後の文脈に注意することです。P.2の [F] の直前に「宇宙」、「秩序正しい…統一体」という言葉があるので、「宇宙」「世界」「秩序」を意味するギリシア語「コスモス」が正解となるわけです。ちなみに「コスモス」の反対語は？ はい、そうです「カオス（混沌）」ですね。この「ドクサ」とは個人的な思い込みや「憶見」を指し、「真理」とは異なるもののことです。また、この「ノモス（法）」と「ピュシス

（自然）」の関係についてピンと来ない人は、資料集の p.44 「自然と人為」を読んでみよう。

問4 [4] 正解 84%

ヘラクレイトスは、試験に本当によくでる自然哲学者ですよ。11%の人が と答えてしまいましたが、生成消滅や運動を否定したのはパルメニデスでしたね。「有」のパルメニデスと「火」「万物は流転する」のヘラクレイトスとは全く逆の立場となります。ちなみに、これは前出のヒポクラテス、これは授業では扱わなかったアナクサゴラスの思想です。アナクサゴラスは資料集 p.48 にかろうじて載っていますよ。

問5 [5] 正解 76%

このピュタゴラスの天文学・音楽は授業で扱いませんでしたし、まず普通の教科書や資料集には載っていないのですが、1999年のセンター追試験に出題されました。この選択肢がちょっと簡単すぎたかも…。エレアのゼノンのパラドックスを知っていれば簡単な問題でした。

問6 [6] 正解 32%

この問題は前回のセンター本試験の問題でしたが、難しかったようですね。選択肢がまぎらわしくて、昨年の本校の受験者の正答率もなんと28%！…ということは、皆さんの方が少し出来がいいようですね。この問題の解き方については、プリントを見直して欲しいのですが、アリストテレスが学問的に「テオリア」＝観想＝理論のことを、「実践」と「制作」よりも重視していたことを覚えていれば、は消えます。この「直感的原理把握」とこの「厳密な論証・推論」を比較するとどうしても を選びたくなってしまう。皆さんの40%が を選んでしまいましたが、「テオリア」の語源が「眺める」という意味であることと、論理学（オルガノン）は高度な学問を学ぶ前の、初学者のための基礎科目だったことを思い出せば を選べたというわけです。納得できた？

問7 [7] 正解 82%

これもよくできていましたね。先週の土曜日に公開になった映画「トロイ」のストーリーはホメロスの『イリアス』そのまんまです。私と同年のブラッド・ピットがアキレウス役で大活躍しているようですね。今度見に行くつもり。

問8 [8] 正解 80%

古代ギリシアの哲学的世界観の成立をあらわす「ミュトス（神話）」から哲学（ロゴス）へ」というキーワードが理解できていたようですので、この問題も難しくなかったでしょう。この「アイデンティティ」は自己同一性や自我同一性と訳される、心理学者エリクソンの用語です。詳しくは資料集 p.26 を参照のこと。この「アンガジュマン」はフランスの実存主義者サルトルの概念で、全人類の運命にも責任を負った社会参加のことをあらわしますが、サルトルは夏の補習と2学期の授業でも扱います。

問9 [9] 正解 65%

この手の問題文趣旨読解問題はセンター試験に必ず出ます。しかも、配点は常に高い！（だいたい4点分ですぞ）

問題文を落ち着いて読めば必ずできる問題ですので、落とさないように気をつけましょう。ここでは、本文から新プラトン主義（資料集 p.52）は「一者（ト・ヘン）」が万物の根源であるということがわかり が消えます。また、「アリストテレスは、宇宙の成り立ちを発生論的に考えなかった」というところから も消えます。下線部(e)あたりをきちんと読み取れば、哲学成立以前は神話的宇宙論、哲学成立後が合理的宇宙論であることがわかり、 が消え、最後から2段落目の2行の文からも が正解であることがわかるはずです。

第2問

問1 [10] 正解 92%

「魂」という言葉は、「psychology = 心理学」の語源でもあるプシュケーが正解となります。ちなみに、古代ローマの「黄金の驢馬」という物語（資料集 p.59）では、クピドーに愛される美女として描かれています。 のフィロソフォスは哲学者（愛知者）、 のソーマは「肉体」をあらわし、ピュタゴラスの「肉体（ソーマ）は魂の墓場（セーマ）である」（資料 p.43）という言葉がある。

問2 [11] 正解 96%

「善く生きよ」はソクラテスの基本ですね。 はヘラクレイトス、 はイエス、 はあえて言えばストア派あたりですね。

問3 [12] 正解 80%

ソクラテスの語る魂のアレテー（徳）は、知恵であり、かつまたそれは「善く生きる」ことに直結するものでしたね。それは「魂への配慮（世話）」に他なりません。 は近代哲学の認識論風の選択肢です。知識の源泉は経験のみによるという立場です。 はコスモポリテースとしての生き方だからヘレニズム思想。 はエピクロスのですね。

問4 [13] 正解 72%

プロタゴラスといえば「万物の尺度は人間である」という人間尺度説、つまり判断基準の相対性を主張する相対主義ですね。その立場では、各人によって異なる主観的な真理は認めますが、すべての人に共通に当てはまる客観的な真理については認めません。 と答えた人は23%いましたが、これは弁論術の大成者であり、懐疑主義者であるゴルギアスの思想です。 に近い思想は「隠れて生きよ」として、公的生活から離れ、自足する生活を理想としたエピクロス派です。 はまだ習っていないところになりますが、「上善は水の若し」「柔弱謙下」をキーワードとする老子の思想となりますよ。

問5 [14] 正解 65%

この問題は選択肢がいずれもソクラテスの思想をあらわすものとして正しい用語ですので、文脈の中でどれが適当かを考える必要があります。下線部分が一行上の「自分の魂をすぐれたものにするためには、何が善であり何が悪であるかについての正しい知を必要とする」というところ

だったら、知恵と徳の結びつきについて述べていますので、の「知徳合一」が正解となるでしょうが、「知」を重要視する立場を示す言葉してもっとも適当なのはやはり、主知主義ということになりますよ。

問6 [15] 正解 95%

これまた易しい問題になってしまいましたね。知への愛、すなわち哲学の意味するところは、哲学者によって違いがあります。 と がプラトンの言う知への愛だということのはすぐにわかったのではないのでしょうか。それに対してはピュタゴラスなどの影響も受けた近代初期の科学思想です。とくに、ガリレオ・ガリレイは自然の中に書き込まれた神の数学の言葉を読み解くことこそが哲学であると考えていました。

問7 [16] 正解 20%

難易度の高い問題となりましたが、これも前回のセンター試験の問題ですが追試験の問題です。問題の p.8 には本試験と書いてしまいましたが訂正願います。さて、この問題は41%が を選んでしまいました。たしかに、人間を理性的動物と解釈するギリシア思想の伝統からすると正しそうに見えますが、そこには問答法におけるロゴスという観点がありません。この問題は、ソクラテスが問答法の中でロゴスをどうとらえたかというものです。を選んだ人は21%いました。問答法を行う時にソクラテスは、自然哲学者たちが行うように、「事物を自然本性にしたがって分析」したり、「その真の在り方を説明し」たりすることはありません。とにかくしつこいくらいに真理にこだわって、納得するまで質問や吟味を繰り返していたのです。プラトンの書いた対話篇にはそのようすがよく描かれていますので、ぜひ一読してみましょう。ということで、正解は ということになります。 は哲学的な福音書『ヨハネによる福音書』の冒頭部分です。日本語訳では「ロゴス」は「言葉」と訳され、「はじめに言葉があった」となっています。ちなみに、ゲーテの『ファウスト』という作品の中に、ファウスト博士が聖書のこの部分の「ロゴス」というギリシア語をドイツ語でどのように訳すかで頭を悩ませるシーンが出てきます。彼が何と訳したか知りたい人は、是非、すばらしい『ファウスト』を一読くださいね。

問8 [17] 正解 97%

これも解説がいらないくらいの正答率です。 は論語から、 はフランシス・ベーコンの有名な言葉ですね。「汝自身を知れ」という言葉が、ソクラテス自身が考え出した言葉ではなく、デルフォイのアポロン神殿などに掲げられていた金言だったことも押さえておきましょう。

第3問

問1 [18] 正解 42%

プラトンといえば、やっぱりイデア論でしょう。この問題では、多少の読解力とともに、プラトンのイデア論と、アリストテレスのエイドスの類似点と相違点をきちんと

理解できているかが問われます。まず選択肢からはずれるのは ですが、これは「眺める」という言葉からも分かるように、問題番号[6]でも出てきたテオリアのことです。また、の「卓越性」がアレテーのことを指すことも分かるのではないかと思います。ここで、との二択になるわけですが、37%の人が選んでしまったのは「自然の(いわば現実の)実体の中に内在する本質」ということですので、われわれの住む現象界から離れたイデア界の存在を指しているわけではありません。あくまでも、ひとつひとつの個物の中に、その個物の本質(エイドス)が存在しているというアリストテレスの思想を指しています。のイデアの説明が「本質」という言葉も「永遠不変」という言葉も使われていなかったため、少し物足りないもの感じられてしまったかも知れませんが、この記述でもはっきりとイデアを示していることを読み取りましょうね。

問2[19] 正解 95%

「学び知るべき最大のもの」、究極で最高のイデアをプラトンが「善のイデア」であるとしたことについては、とても良くできていました。の「求める愛」はエロース。

の「不動の動者」とは、すべての運動の第一原因であり、なおかつ自らは他の何ものにも動かされない「第一動者」としての「神」を示すアリストテレスの概念です。

問3[20] 正解 72%

の「自己犠牲的な愛」を選んだ人が16%いましたが、釈迦の前世物語(ジャータカ)に、法隆寺の玉虫厨子にも描かれている、薩多太子(さったたいし)が飢えた虎の母子に血肉を与えた話や、イエスが十字架上で自らを生贄(いけにえ)として神に捧げて人類の罪を贖(あがな)った話ならあてはまりますが、求める愛としてのエロースとは異なります。の「善美」はギリシア語で「カロカガティア」と呼ばれ(資料集 p.58)、古代ギリシア人にとって身につけるべき重要な価値とされていました。

問4[21] 正解 45%

一問一答式の用語問題をしっかりとやっていれば、難なく解答を導くことができたのではないかな? 『饗宴(シュンポシオン)』については、資料集 p.52 あたりに少し説明が載っていますが、副題が「恋(エロス)について」となっています。同じように、『クリトン』の副題は「行動はいかにあるべきかということについて」、『パイドン』は「魂について」になっています。また、『国家』で論じられているのは、正義とは何かということ、魂の三部分説に対応する理想国家のあり方や洞窟の比喩などです。『ティマイオス』には「自然について」という副題が付せられ、宇宙の成立と人間との関係について描かれています。ちなみにプラトンの『ティマイオス』と『クリティアス』には、失われた島アトランティスの伝説が描写されています。

問5[22] 正解 89%

これまた簡単な問題でした。プラトンの学園アカデメイアは、東ローマ皇帝ユスティニアヌスの勅令(529)による活動停止まで900年余にわたって存続したのですが、そ

の後、ヨーロッパの学芸を支えたのがスコラ(修道院付属学校)であり、12世紀頃から成立した大学であるわけです。煩瑣な学問として知られる「スコラ哲学」については、中間調査後に学習しますので覚悟しておいて下さいね。

問6[23] 正解 79%

センター試験の場合、間違いの選択肢にもきちんとした思想的根拠があることが多く作られています。たとえば、皆さんの12%が選んだの、「物質的現象には実体がない」という思想は仏教の空の思想「色即是空」をあらわしています。(この思想も映画『マトリックス』の一作目で展開されていました)また、の因果関係を否定する思想はイギリス近代経験論の哲学者ヒュームの思想です。についても、イギリス経験論のフランシス・ベーコンの洞窟のイドラ(偶像)の説明です。いずれもまだ学んでいない思想ですが、すべて学習すればさらに正答率が上がる問題となるはずですよ。

問8[25] 正解 80%

長文選択肢の問題の場合、選択肢の中に思想をあらわすキーワードを見いだすということがポイントです。の場合は「宇宙の根本の道」や「無我の境地」がキーワードとなっていますが、これは道家思想や禅的な思想といえます。

は「神の定めた予定」というキーワードからプロテスタント、カルバン派の予定説に似ています(ただし神の予定は人間は知り得ないと考えられていますが...)。は「苦しみの滅却」ということで、仏教的思想ですね。ということで、「善のイデア」「魂...の本来の姿」というプラトンのキーワードから、正解を導くことができます。一問一答式問題などでキーワードをしっかりと理解しておくことが、選択肢を確実に選び取るために有効な学習方法ですよ。

問9[26] 正解 73%

センター試験では、この問題のようにこれまで見たことのないような資料を読んで考えさせた上で、正しいものを選ばせるという問題がとてよく出てきます。この時受験生に試されているのは、資料の読解力と該当する思想についての深い理解なのです。だから、まず資料をしっかりと読むこと。この資料が示しているピュタゴラス派の3つの生き方(資料 p.43)のうち、「享樂的生」を3種の人間と国家の3区分のどこに入れるかが最大のポイントになります。売買も、競技に参加することも、見物することもいずれも取りようによっては「享樂的」と言えそうだからです。ここで思い出して欲しいのが、観想(テオリア)がもともと「眺める」という意味だったことです。「見物に来る者」が統治者と並んでいるので分かります。観想的生が[c]に入ります。すると、「実践」と「享樂」が[a]か[b]かということになりますが、金銭を求める生産者と名誉を求めて競技する防衛者と比較すると、プラトンが軽んじている「生産者」の側に「享樂」を当てはめる方が適切であると判断できます。

第4問

問1 [27] 正解 65%

最初に整理しておきたいのは、プラトンが事物の本質や実在だと考え、現象の世界を越えた(超越した!)ところにあると考えたアイデアの存在を、アリストテレスがすべて否定したわけではないということです。アリストテレスはプラトン同様、アイデアを事物の本質と捉えて、それが理想の世界ではなく現実のひとつひとつのモノの中にあると考えたのです。これを少し難しい言葉でいうと、「個物に内在する」という表現になるわけです。ちなみに、個物と普遍、内在と超越はそれぞれ対概念です。プラトンの考えるアイデアは、「個物を超越」し、「普遍に内在」する真実存在である、ということが出来ます。

問2 [28] 正解 92%

この問題は、すべての運動がなんらかの原因によってはじまり、ある目的に向かって変化することと、可能性が現実化するのが運動・変化であるということが理解していれば難しくありません。可能態が形相を実現する可能性をもった質料の状態のことを指し、現実態は無規定の質料が形相を実現して具体的な姿を現した状態を指すことも押さえておきましょう。

問3 [29] 正解 71%

倫理的徳＝習性的徳のなかで、アリストテレスは特に市民を共同体に結合する原理としての「正義」と「友愛」を重視しています。の「勇氣」と「節制」はプラトンの四元徳のうちの二つです。さて、四元徳残りの二つは何か？はい、そうですね。「知恵」と「正義」です。つまり、「正義」の徳については、プラトンとアリストテレスでははっきりと違うものとしてとらえられていますので、注意して整理しておくがよろしい。

問4 [30] 正解 34%

アリストテレスの倫理学の主要概念が「中庸」だが、その「中庸」を命じるのが知性的徳のうちの一つである「思慮」の徳ですね。もう一つの知性的徳が「知恵」ですが、その説明が になります。また、は無謀と臆病の中庸ということで、「勇氣」の徳の説明です。となると、か か、つまり思慮の徳と知恵の徳のどちらが魂の高い部分、あるいは低い部分を支配しているかという選択になります。アリストテレスが価値あるものとするのは、常にテオリア的なもの、理性的なものですから、思慮は知恵(理性に関わる)よりも魂の低い部分(意志や欲望などに関わる)ものとしてとらえることが出来ます。そもそも、アリストテレス自身の中でも「倫理学」などという実践的な学問はそれほど重視されていなかったのですから…。

問5 [31] 正解 37%

センター試験のこのような問題は、単に用語を知っているだけでなく、その用語の意味するところや思想家の思想全体を理解しているかどうかが問われています。たとえば、
は倫理的徳＝習性的徳は中庸にしたがう経験と修練付

けによって(生まれつきではない!)獲得されることを理解しているかどうか。(何と37%が選んでしまった!)については、最高善としての幸福は観想的な生活すなわち知性的徳(倫理的徳ではない!)としての知恵を働かせることによって実現できるとか。用語の名前を知っているだけでは答えられない深い理解を必要とする問題になっています。しかし、授業プリントと資料集のp.54,55をきちんとじっくり読んでいけば、用語の概念についてもしっかり理解することが出来るはずです。が間違っているのは、倫理的徳が中庸をもたらすように書かれている点ですね。実際は、思慮が命じた中庸の習慣によって身につけられるのが倫理(習性)的徳ですから、が正解となります。

問6 [32] 正解 59%

空欄[F]の主語がアリストテレスならば当然、の観想こそが真の幸福と言うでしょうね。23%の人がを選んでしまいました。エピクロス派やストア派などのヘレニズム思想はコスモポリタニズムや個人主義がその特徴でしたが、のようにあからさまな個人の利益を求める思想ではありませんでした。国家や共同体よりも個人の魂の安定を求めていましたので、正解は ということになります。

問7 [33] 正解 34%

ストア派の重要用語が問われています。自然を支配し、かつ、人が従うべきものという観点からすると、パトス(情念・28%)とノモス(法・18%)をまず選択肢からはずさなければなりません。のピュシスも自然の本性という意味では大きくはずれてはいないのですが、やはりストア派の思想としては、ロゴス(理性・理法)を選択すべきでしょうね。

問8 [34] 正解 69%

この選択肢の中のアウタルケイアという用語は初耳ではないかと思いますが、じつは、資料集にもこの言葉はp.54のアリストテレスの最高善の説明の中に出ています。ここでいうアウタルケイアはエピクロスの用語で、個人的なアウタルケイア(自己充足・自足)、すなわち肉体の健康と心境の平静を求めることが快樂主義の目的であるというように用いられます。しかし、選択肢では、アウタルケイアはストア派の用語であるかのように書かれていますので、ここではオーソドックスに、ストア派がアパテイア、エピクロス派がアタラクシアということが押さえられていけばよろしいわけです。

問9 [35] 正解 84%

この問題がセンター試験に出題された1999年当時は、これはかなりの難問として扱われていました。というのも、以前はエピクロスの原子論にもとづく死の解釈はほとんど授業でも教科書でも資料集でもふれられることがなかったからです。また、1999年は前年までの倫理の70点近い平均点が問題となって、難易度の高い出題傾向がみられるようになった年でもあります。特に2000年の倫理の平均点は54点になってしまい、それまで4万人いた倫理の受験生が昨年2003年度の試験まで3万人台に減ってしま

うくらいの衝撃を受けました。これを私は「倫理 2000 年問題」と呼んでいます。やっと 4 万人台の受験者を回復した昨年 2004 年の倫理のセンター平均点は 69.87 点と 1998 年の水準に戻りましたが、来年の入試でまた急激に問題が難化することはないと私は考えています。なぜならば、倫理の平均点が高かったのは問題が易しかったからではなく、倫理受験者の学力が他の科目よりも高かったからではないかと考えるからです。新教育課程に移行する再来年度入試では、単位数（試験範囲！）が半分に減少する現代社会の選択者がさらに増加することが予想される中で、倫理選択者数を壊滅的に減少させるような 2000 年入試のようなことを、大学入試センターは望んでいないはずであるというのが私の読みです。

第 5 問

問 1 [36] 正解 40%

これまたこの間のセンターの追試験の問題。問題をしっかり読んで、適当でないものを選べましたか？ 意外にこんなところでミスする人も多いので注意です。この問題は明らかに違うところを見つけ出せばそれで終わりの簡単な問題です。旧約聖書の段階ではイスラエルの民こそが神に選ばれた民であるという意識がありましたから、神の「人類全体への平等な愛」という特徴はありませんでした。この意識があらわれるのはイエス以降のキリスト教からです。ということで が適当でないということになります。

問 2 [37] 正解 83%

「モーセの十戒」。これはさすがに簡単でしたね。のアブラハムを選んだ人が 13% いました。キリスト教の解釈では、創世記の中で、神に命じられるままアブラハムがひとり子イサクを殺そうとしたこと（資料集 p.64）と、神のひとり子イエスが十字架上で生け贄になったことは関連があると考えています。

問 3 [38] 正解 64%

福音書によると、イエスのことを大飯ぐらいで大酒飲みだと非難した人もいたようです。また、ユダヤ教の過ぎ越の祭りの伝統に則って行われた「最後の晩餐」でもぶどう酒をイエスは「みな、この杯から飲みなさい、これはあなたのために流されるわたしの血、契約の血である」と言っているとおり、ユダヤ・キリスト教では原則的に飲酒を禁じてはいません。イスラームと仏教では飲酒を禁じる戒律があるのですが、仏教のお坊さんは「般若湯（知恵の湯）」と呼んでよく飲んでますよね。

問 4 [39] 正解 80%

の士師（しし）とは、出エジプト後のカナン定着以降、前 11 世紀後半に王政を樹立するまで、イスラエルの部族連合を率いたカリスマ的指導者をさす言葉です。ところで、預言と予言の違いはわかりますか？ 預言は神の言葉を預かって人々に伝えることをさし、予言は未来の出来事を予告するときに使いますよ。

問 5 [40] 正解 57%

ユダヤ・キリスト教の時間意識の特徴は、歴史にはつきりとした始まりと終わりがあるということです。世界は神の創造によって始まり、世の終わりに神の最後の審判があると考えます。ですから、歴史が永遠に続くとするの歴史観は誤りとなります。また、神の国に入る者は、あらかじめ神によって決められているという思想（予定説）は、カルバンというキリスト教宗教改革者以降の信仰になりますから、 は誤り。 はキリスト教の歴史観なのでこれもはずれて正解は ということになります。

問 6 [41] 正解 59%

ダビデ王は確かに「メシア」と呼ばれていましたが、それは「油を注がれた者」＝「王」という意味であって、彼自身がイエスのように神のひとり子として見られていたわけではありません。また、あらゆる罪の無縁だったわけではなく、美しい人妻に子供を産ませた上に、その夫を戦の前線に送って戦死させたりして神の怒りをかったことが『サムエル記』に描かれています。

問 7 [42] 正解 85%

イエスの弟子の頭であるペトロという名前は「岩」という意味のあだ名で、イエスにあう以前の漁師をしていた頃はシモンという名前でした。そこで、ときに彼はシモン・ペトロと呼ばれます。バプテスマ（洗礼）とは、キリスト教会で行われる入信の儀礼のことをさしています。バプテスマの（洗礼者）ヨハネの洗礼を受けたあとのイエスは教科書 p.38 では「当時死海のほとりにあった隠者たちの共同体にはいった」のではないかと書かれていますが、これはユダヤ教エッセネ派（クムラン教団）をさしています。しかし、この話はあくまでも仮説ですので、センター試験には出ません。

問 8 [43] 正解 70%

「人はパンのみで生きるものではない、神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」資料集 p.68 というところから、答えは 。 も近いですが、「宗教的な掟を守ること」を重視するのは律法主義者の発想に近いですね。

問 9 [44] 正解 52%

これはもう少し正答率が高くてよさそうなものです。はセンター試験に出たことはありませんが、熱心党（ゼーロータイ、ゼロテ党）。 はサドカイ派。 は問題番号 [42] の解説でも説明したエッセネ派（クムラン教団）のことをさします。

問 10 [45] 正解 16%

何とこの問題が今回の試験の正答率最低問題でした。のイエスの言葉（資料集 p.66 に書いてあるぞー）を選んだ人が 56%、 の復活の話を選んだ人が 19% と、いずれも よりも多い選択数でした。 はイスラームの預言者ムハンマドのエピソードです。覚えておきましょうね。

問 11 [46] 正解 84%

この問題が 84% できているのはすばらしいですね。イエスの説いた愛は、無償の愛、対象を選ばない愛であり、

助けを必要としている人であれば、それが自分にとって敵であったとしても愛すべきであるというものでした。

問 1 2 [47] 正解 59%

裁きの神 = 義の神 = 旧約的な神

父なる神 = 愛の神 = 新約的な神

上のような対比がもちろん 100% その通りではなく、旧約聖書に描かれる神にも慈愛あふれる側面はあるし、福音書の中に描かれる神にも悪を裁く正義の神の側面があります。ですから、全体的なイメージなのだというとらえ方をした方がよいでしょうね。

問 1 3 [48] [49] (順不同) 正解 22% , 正解 78%

は父と子と聖霊の三つの神格は同質の一なる神であるというキリスト教の三位一体説を批判したコーランの言葉。 はやはり、聖戦 (ジハード) を説いたコーランの言葉。 がイエスの言葉らしくないので、なんと 81% の人がこれを選びましたが、資料集の p.66 に「平和ではなくつるぎを投げ込むために来た」とはっきりと書いてあるように、家族や仲間への利己的な幸福を求めることは、無償の隣人愛に反することもあるという意味でイエスが語った言葉なのです。身近な人のみを大切にすることを語る、問題番号 [46] の の選択肢が、まったくそのような隣人愛に反するケースということができるでしょうね。この言葉は結構ねらわれやすいところだから覚えておいてね。

問 1 4 [50] 正解 32%

これは最後の問題なので、難しくしてみようかと重箱の隅をつつくような細かい問題にしてみました。ごめんなさいね。資料集 p.67 の右下には、福音書についての解説がいくつか書かれています。もともとコイネーと呼ばれる共通ギリシア語で書かれた福音書は、ヒエロニムスによってラテン語に翻訳されて「ウルガータ」と呼ばれ、中世のヨーロッパではもっぱらウルガータが使われていました。4つの福音書の成立順はマルコ、マタイ、ルカ、ヨハネの順番といわれ、最初の3書は類似した観点から書かれているため「共観福音書」といわれ、ヨハネによる福音書だけはその内容が哲学的キリスト論を含むものとなっています。

「はじめに言 (ことば) があった」 (問題番号 [16] の選択肢) で始まるヨハネ伝は、ロゴス = 言葉をキリストととらえてその福音を宣べ伝えていきます。